

「中国でもマラソンブーム、大会が各地で急増」

上海国際マラソン(以下、「上海マラソン」と略記)は、大連・北京・アモイの大会と並ぶ中国4大マラソンのひとつです。1970年代から「市民マラソン」として始まり、1980年代から国際色のある大会へと変化しながら、徐々に参加者が増えてきたという伝統ある大会です。1996年に「上海国際市民マラソン」と改めて始まりましたが、翌年の第2回大会にも再度「上海国際マラソン」と改名し、現在に至ります。

ちなみに、第2回大会から東レが主要スポンサーとなって通称「東レカップ」と呼ばれるようになりました。そんなわけで、中国で最も日本人ランナーに馴染みのある大会でもあります。東レは、2012年から3大会に渡って、尖閣諸島問題の影響からスポンサーを下りていましたが、昨年からまたスポンサーに復帰しています。今日では、世界的スポーツブランドのナイキや中国大手企業がスポンサーとなっていますので、「東レカップ」と呼ばれなくなりましたが、上海マラソンの人気盛況の陰には東レや日系企業及び日本人の貢献があると言っても過言ではありません。

参加者数は年々増えています。ちなみに、気軽に参加できる5kmの「健康マラソン」には、PR目的で会社名が記載された弾幕や旗を掲げて走る人も多々見られます。以前は、早いもの順での申し込み受付でしたが、一昨年からはネットでの申し込み・抽選方式になりました。そこで、それまで毎年参加していたのに抽選落ちてし

まったベテランランナーからの批判殺到がちょっとした話題となりました。

このようなマラソンブームに乗って、主要都市はもちろんのこと、人口100万人ほどの三級都市においてもマラソン大会が増えています。中国陸上協会が運営するマラソン情報サイトによると、中国で開催されるマラソン大会は2011年時点で22だったのが今年は約300もあり、急増しているそうです。

ちなみに筆者の友人は、趣味でランニングを始めマラソン未経験ながら上海の日本人マラソンチームに所属していたのですが、小さい都市の主催団体から誘致を受けてよく参加していました。大会参加に伴うエントリーなどの事務手続を行ってくれるほか、現地での宿泊費を負担してくれることが多かったようです。時には上海からの交通手段を手配してくれるところもあったそうです。

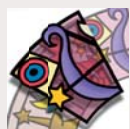
急増する大会の中で、「国際マラソン」と称してスポンサーや参加者をより惹きつけたい主催団体は、宣伝広告費をかけるだけでなく、国外から選手を誘致したり、中国国内の外国人ランナー団体を招待するなどして大会を盛り立てています。このように、招待する目的は、「国際マラソン」という箔を付けるためだけではなく、地方振興や観光誘致につなげたいという意図もあります。マラソンコースにはその都市の観光地や見どころが組み込まれており、マラソンは都市PRの新しい形と言えるでしょう。例えば上海マラソンでは、変化の激しい街並みに合わせて、新しいランドマークや商業エリアができると、コース変更してマラソンコースに組み込んでいます。

中国では、マラソン大会が最も収益率の高いスポーツイベントだと言われています。幅広い層に受け、都市全体をPRできるイベントであり、ホテルや物販消費にもつながるからです。中国でのマラソン大会が今後さらに各地で乱立する中で、広島江田島かきマラソンのように、各地の郷土や特徴を生かした個性豊かなマラソン大会が登場して欲しいと思います。

(協)広島総合卸センター 囑託

(前上海事務所 所長)

蔡 徳 栄



射手座生まれ 11月23日～12月21日
活発に行動できる時。飛び込みの訪問で新たな道がひらけそう。



山羊座生まれ 12月22日～1月19日
巻き込まれそうになっても踏みとどまって今後を明確にしましょう。